

教科名 工業数学

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 柴田 達也 実務経験: 一般教員

目 的	建築を学ぶ上で必須となる数学の基礎知識を学び、建築設計、構造力学、環境工学、建築法規等の数字・計算を必要とする科目の理解に繋がる下地をつくる。
-----	---

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	① 工業数学の概要 … 目的・進め方・定期試験について等	①
	② スケール感 ① … 単位の仕組み	②
	③ スケール感 ② … さまざまな単位	③
	④ さまざまな事象について計算をする① … 四則演算・分数を含む計算	④
	⑤ さまざまな事象について計算をする② … 比の計算・公式の活用・比例反比例	⑤
	⑥ 建築設計と図形 … 図形と幾何学・直線と角度・形状の美しさ	⑥
	⑦ 1D(線)を扱う建築事象 … 長さの測定・三角比の利用・測量への応用	⑦
	⑧ 2D(多角形)を扱う建築事象 … 図形の面積・建ぺい率と容積率	⑧
	⑨ 3D(立体)を扱う建築事象 … 立体の体積・質量と力	⑨
	⑩ 1D・2D・3Dのまとめ	⑩
	⑪ さまざまな事象について解を求める	⑪
	⑫ 力を扱う建築事象	⑫
	⑬ 全体のまとめ	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験・期末試験(計2回)による100点満点の平均点数 (平常点も含む)
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	超入門・建築数理 (市ヶ谷出版社)	資料及び問題プリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 就職研修(硬質書写)

	前期	後期
コマ数	-	0.5

総時数
19

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 若狭 聖子

実務経験: 一般教員

目的	就職活動の応募書類(履歴書)を丁寧に心を込めて書き、読み手が読みやすいような書き方、また面接後のお礼状、封筒の宛名書きなど、就職内定にむけての技能の向上を図る。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 自分の名前を丁寧に仕上げる(履歴書の下書き)
	②	② 履歴書を仕上げる(ひな型とする)
	③	③ 履歴書添え状などの書き方
	④	④ 封筒の宛名書き
	⑤	⑤ 面接後のお礼状の書き方
	⑥	⑥ 内定のお礼状の書き方
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭

評価方法	受講態度、出席状況、課題提出などをもって総合的に評価する100%
------	----------------------------------

教科書教材	教科書	教材	
	就活本や、ペン習字の冊子より適時、引用(指導者抜粋)	教科書の引用部分をプリンアウトする 学校指定の履歴書を活用	

その他	履歴書用の最適な筆記用具必須
-----	----------------

syllabus

教科名 就職研修(表計算・ワード)

	前期	後期
コマ数	-	0.5

総時数
19

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 武川 真理子

実務経験: 一般教員

目的	現場で必須である、Excelを使用しての簡単な表作成やWordを使用してのビジネス文書の作成(社内・社外文書等)等、実務経験をもとにPCと一般的な事務知識を習得する また、日本情報処理検定協会主催のWordやExcelの検定試験対策をし、1人でも多くの資格取得を目指したい
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
		① Excelを使った簡単な表計算
		② (SUM, AVERAGE, IF, VLOOKUP, ROUND, MAX, MIN, OR, AND, COUNT等)
		③ グラフの作成・データベース
		④ 2級までの検定問題
		⑤ 社内文書・社外文書作成

評価方法	定期試験をもとに100点満点で採点する。
------	----------------------

教科書 教材	プリントを使用する		
-----------	-----------	--	--

その他	
-----	--

教科名 建築史

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科	建築学科1年
	建築設計デザイン科1年

担当教員 井潤裕 実務経験: 一般教員

目的	西洋建築史と日本建築史の基本的な知識を習得して、建築技術者としての基礎的な教養を確立する。建築構造やデザインの起源や背景事情を学ぶことで、建築のもつ社会的・歴史的意義を理解して、建築分野の専門知識を感得するための基盤を醸成する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 講義の概要・オリエンテーション 西洋古代① エジプト・メソポタミア	①
	② 西洋古代② 古代ギリシア 西洋建築の源流古典的オーダー	②
	③ 西洋古代③ 古代ローマ 古代における建築技術の集大成	③
	④ 西洋中世① 初期キリスト教・ビザンチン建築 教会建築の淵源	④
	⑤ 西洋中世② ロマネスク建築 西ヨーロッパにおける建築技術の復興	⑤
	⑥ 西洋中世③ ゴシック建築 より高く、より明るい教会堂建築への模索	⑥
	⑦ 中間テスト 西洋建築史	⑦
	⑧ 日本古代① 飛鳥・白鳳期の仏教建築 法隆寺と和様の展開	⑧
	⑨ 日本古代② 平安時代の仏教建築 密教寺院や阿弥陀堂など国風文化の影響	⑨
	⑩ 日本古代③ 神社建築 古代から平安時代に至る神社建築の諸様式	⑩
	⑪ 日本古代④ 都城と住宅建築 条坊制と平安京・寝殿造への道程	⑪
	⑫ 日本中世① 鎌倉期の宗教建築 大仏様・禅宗様と仏教寺院の習熟	⑫
	⑬ 日本中世② 武家住宅と座敷 封建文化の影響と和風建築の淵源	⑬
	⑭ 期末テスト 日本建築史	⑭
		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材			

その他	2級建築士
-----	-------

教科名 都市計画概論

	前期	後期	総時数
コマ数	-	1	38

開講学科 建築学科2年

担当教員 井潤裕

実務経験: 一般教員

目的	太田道灌から東京オリンピック(1964年)にいたる江戸・東京の都市計画史を通観し、近世～近代日本の都市計画技術・思潮の発展過程を理解させる。それと同時に、産業革命以降の都市問題の解決策として発達した近代都市計画思潮を概観し、それが東京をはじめとした都市の基礎的な構造となっていることを理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① オリエンテーションと基礎知識
	②	② 都市計画とは何か
	③	③ 江戸の都市計画① 太田道灌と徳川家康
	④	④ 江戸の都市計画② 江戸の構造と明暦の大火
	⑤	⑤ 近代都市計画思潮① 産業革命と都市問題
	⑥	⑥ 近代都市計画思潮② ユートピアと社宅街
	⑦	⑦ 近代都市計画思潮③ ハワードとコルビジェ
	⑧	⑧ 東京の都市計画 明治① 銀座煉瓦街
	⑨	⑨ 東京の都市計画 明治② 日比谷官庁街計画
	⑩	⑩ 東京の都市計画 明治③ コンドルと市区改正
	⑪	⑪ 東京の都市計画 大正① 関東大震災と復興計画
	⑫	⑫ 東京の都市計画 大正② スプロールと沿線開発
	⑬	⑬ 東京の都市計画 昭和① 緑地帯と東京大空襲
	⑭	⑭ 東京の都市計画 昭和② 東京オリンピック
	⑮	⑮

評価方法	中間テストと期末テストの平均点数(80%)および出席点(20%)により評価する。
------	--

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材	東京のまちづくり(彰国社)		

その他	
-----	--

教科名	建築一般構造
-----	--------

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科	建築学科1年 建築設計デザイン科1年
------	-----------------------

担当教員	佐藤 嘉彦
------	-------

実務経験:	建築施工管理・建築設計
-------	-------------

目的	建築物の構造体の分類と各種工法についての学習と、二級建築士試験で中心となる木構造と、鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の基本を学び、建築施工との関連を理解することを目標とする。
----	---

実務経験の生かし方	施工管理の実務経験を通じて、最低限建築の仕事で困らない程度の知識は全体的に押さえ、建築士試験の問題の範囲も盛り込んでいく。また、安心・安全な建物の基本について学び、実務経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 建築工法の変遷 ・構造、構法の分類	① RCの構造形式と構造原理 ・コンクリートの材料構成
	② 各種構造の特徴 ・設計図書	② 鉄筋の種類と強度 ・鉄筋の加工、かぶり厚さ、定着
	③ 木材の性質、強度 ・製材の呼称、木材の変形	③ ラーメン構造の構成 ・基礎の種類
	④ 軸組み工法の部材構成	④ 柱の構成 ・梁の構成と配筋
	⑤ 建て方順序、仕口	⑤ スラブの構成 ・壁の構成
	⑥ 地盤調査、配筋、やりかた	⑥ 内外装各部の仕上げ ・階段の構成
	⑦ 基礎の構成 ・柱の構成、小径、緊結	⑦ 壁式構造 ・鉄骨鉄筋コンクリート工法
	⑧ 横架材(梁)	⑧ 鉄骨造の構造形式 ・鋼材の形状と柱、梁の種類
	⑨ 小屋組みの構成 ・屋根の形状と名称	⑨ 接合方法(高力ボルト接合) ・架構の構成と建て方
	⑩ 筋交いの構成、壁量計算	⑩ 床、外壁の構成
	⑪ 壁量計算・四分割法	⑪ 内部空間名称、外部空間名称
	⑫ 柱頭 柱脚金物の設置基準	⑫
	⑬ 壁の構成・床の構成	⑬
	⑭ 接合方法、金物の種類	⑭

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による。但し、平常点(授業態度)による評価(加点・減点)あり。
------	--

教科書 教材	教科書 図解 やさしい一般構造 (学芸出版社)	教材 確認テスト(毎授業配布)	備考

その他	二級建築士学科試験の建築構造に関連する内容とする。
-----	---------------------------

教科名 建築材料

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築設計デザイン科 2年
建築学科 2年

担当教員 柴田 達也

実務経験: 一般教員

目 的	建築材料学は、建築空間を構成する基本となる素材の学習である。建築材料を構造材料と仕上材料に大別し、材料の歴史的な使用方法から、現在の新しい構造・構法などを通して用いられる材料の特性・使用方法を学び、資源の枯渇・環境問題等、今後の建築材料のあり方など、現在の現場における仕様を実務経験をふまえて教える。
-----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	① 1-1建築材料の歴史 1-2 建築材料と規格 ② 1-3建築材料と環境 1-4建築材料の分類 1-5 建築材料と性能 ③ 2-1日本建築と木材 2-2木材の種類 2-3木材の特徴 2-4木材の強度 ④ 2-5木材の構造 2-6木材と水分 ⑤ 2-7木取り、規格、等級 2-8エンジニアリングウッド ⑥ 3-1コンクリートとは 3-2セメント ⑦ 3-3骨材 3-4水 3-5混和材料 ⑧ 3-6コンクリートの性質 3-7コンクリートの調合設計 3-8コンクリートの種類 3-9コンクリートの製品 ⑨ 4-1鉄の歴史 4-2鋼材とは 4-3鋼材の性質 ⑩ 4-4鋼材の特徴 4-5鉄鋼の種類 4-6鋼材の性質 ⑪ 4-7鋼材の腐食と防食 4-8鋼材の規格 ⑫ 4-9非鉄金属 _____ _____	① 5-1焼成品は焼き物 5-2タイル 5-3れんが ② 5-4瓦 5-5衛生陶器 ③ 6-1ガラスとは 6-2ガラスの歴史 ④ 6-3ガラスの特徴 6-4ガラスの種類 ⑤ 6-5石材とは 6-6石材の特徴 6-7石の分類 ⑥ 7-1左官とは 7-2左官の起源と定義 7-3左官の特徴 ⑦ 7-4近年の左官仕事 7-5左官の種類 ⑧ 7-6ボード類 ⑨ 8-1プラスチック材料 8-2塗料 8-3接着剤 ⑩ 9-1はじめに 9-2床仕上材 ⑪ 9-3壁仕上材 9-4天井仕上材 ⑫ 9-5防水材料 9-6防火材料 9-7耐火材料 9-8断熱材料 9-9防音材料 _____ _____

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	やさしい建築材料 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名

環境工学

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数

74

開講学科

建築学科 2年

建築設計デザイン科 2年

担当教員

大脇 久美

実務経験:

一般教員

目的

建築を取り巻く様々な自然環境や都市環境、また人間の快適条件を学んだ上で、快適な建築環境の作り方・手法を教える。熱・空気・光・音などの基礎知識が実務の設計でどのように有効に使われるかを実例をあげながら説明する。

実務経験の生かし方

授業概要	前期	後期
	建築環境の概要	日照と日射①/日照と住環境、太陽の位置
①	気候①/気候と建築、気温、湿度	日照と日射②/日照と日影の検討(日影曲線、天空率、法的規制)
②	気候②/空気線図、風、雨と雪	日照と日射③/日影図
③	気候③/室内気候(温熱要素、温熱環境の指標)	日照と日射④/日射(直達日射と天空放射、日射熱の流入、日照調整)
④	伝熱と結露①/伝熱の基礎、熱貫流	採光・照明と色彩①/測光量、視覚と見やすさ
⑤	伝熱と結露②/熱貫流の計算	採光・照明と色彩②/採光(採光率、採光計画)
⑥	伝熱と結露③/断熱の効果、断熱の計算	採光・照明と色彩③/照明(照明計算、照明計画)
⑦	伝熱と結露④/熱容量、外断熱と内断熱、蓄熱、結露	採光・照明と色彩④/色彩(色の心理的・生理的效果、色彩調節)
⑧	換気と通風①/室内の空気汚染	音環境①/音の性質(音の発生と伝搬、音の3要素、音の量と単位)
⑨	換気と通風②/換気目的、必要換気量・換気回数の計算	音環境②/遮音と吸音(遮音、吸音、吸音機構)
⑩	換気と通風③/自然換気(風力換気・重力換気)、通風	音環境③/騒音と振動(騒音・振動とその影響、遮音対策、振動防止計画)
⑪	換気と通風④/換気の種類、換気に関する法規、通風	音環境④/室内音響
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		

評価方法

中間試験・期末試験による100点満点評価

教科書
教材

教科書

建築環境・設備(学芸出版社)

教材

補助プリント

備考

その他

教科名	建築計画
-----	------

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科	建築学科1年 建築設計デザイン科1年
------	-----------------------

担当教員	大脇 久美	実務経験:	一般教員
------	-------	-------	------

目的	建築設計の基本となる計画分野を、住宅や教育施設、商業施設といった用途別で習得する。まずは、身近な建築物を具体例に授業を進め、自分の身のまわりにある事柄として、親近感を持ってもらうことが授業の最大の狙いである。また、計画分野は、一級建築士試験や二級建築士試験に必ず出題されるため、将来の試験を見据え、目的を理解した上での前向きな学習を推奨したい。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ガイダンス / 建築計画の概要	後期 社会教育施設の計画(1)
	① 居住施設の計画(1)	① 社会教育施設の計画(2)
	② 居住施設の計画(2)	② 社会教育施設の計画(3)
	③ 居住施設の計画(3)	③ 社会教育施設の計画(4)
	④ 居住施設の計画(4)	④ 社会教育施設の計画(5)
	⑤ 居住施設の計画(5)	⑤ 中間試験
	⑥ 中間試験	⑥ 商業施設の計画(1)
	⑦ 細部計画	⑦ 商業施設の計画(2)
	⑧ バリアフリー対策	⑧ 商業施設の計画(3)
	⑨ 学校教育施設の計画(1)	⑨ 商業施設の計画(4)
	⑩ 学校教育施設の計画(2)	⑩ 商業施設の計画(5)
	⑪ 学校教育施設の計画(3)	⑪ 商業施設の計画(6)
	⑫ 学校教育施設の計画(4)	⑫ 期末試験
	⑬ 期末試験	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験(各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	---------------------------------------

教科書 教材	教科書 やさしい建築計画 (学芸出版社)	教材 オリジナル資料	備考
-----------	----------------------------	---------------	----

その他	
-----	--

教科名 建築法規 I

	前期	後期	総時数
コマ数	1	1	74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 矢野 倫大 実務経験: 建築設計

目的	わが国の建築に関する法律の目的・役割を理解した上で、条文の構成・表現を学び、建築基準法の基本的な知識を身に付けることをねらいとする。担当教員の一級建築士の実務経験をもとに、個々の建築物に対する規定である単体規定について説明し、建築物を計画・設計するうえで必要な法律上の知識を身につける。また、建築施工 I の授業の内容を踏まえ、各種手続についても学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	1年次は、主に建築基準法の単体規定を中心に学習することから、採光や換気および一般構造や内装制限に関する規定について学ぶうえで、携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。また、各種手続についても経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 建築基準法の概要 1) 建築法規の体系 2) 法令集のセットアップ ② 用語の定義① 1) 建築物の定義 2) 特殊建築物の定義 ③ 用語の定義② 延焼のおそれのある部分 ④ 用語の定義③ 1) 主要構造部 2) 耐火・防火 3) 耐火性能の技術的基準 ⑤ 用語の定義④ 1) 建築面積の算定 2) 床面積の算定 3) 延べ面積の算定 ⑥ 用語の定義⑤ 1) 地盤面 2) 建築物の高さ 3) 軒の高さ・地階 ⑦ 一般構造① 1) 居室の定義 2) 天井高さ 3) 床高さ・床下の換気 ⑧ 一般構造② 1) 用途地域の概要 2) 居室の採光に関する規定 ⑨ 一般構造③ 1) 居室の採光に関する計算 2) 採光を確保するために必要な距離の算定 ⑩ 一般構造④ 1) 居室の換気の概要 2) 自然換気設備 3) 機械換気設備 ⑪ 一般構造⑤ 1) 中央管理方式の空調調設備 2) 特殊建築物の居室の換気設備 3) 火気使用室 ⑫ 一般構造⑥ 1) 住宅の階段の寸法と屋外階段の幅 2) 住宅以外の建築物の階段に関する寸法規定	① 防火に関する材料 1) 不燃材料、準不燃材料、難燃材料 2) 耐水材料 ② 耐火建築物・準耐火建築物 1) 耐火建築物の要件 2) 準耐火建築物の要件 ③ 内装制限① 1) 内装制限を受ける建築物 2) 内装制限を受ける特殊建築物 ④ 内装制限② 1) 内装制限を受ける大規模な建築物 2) 内装制限を受ける火気使用室、無窓の居室 ⑤ 内装制限③ 1) 法別表1の特殊建築物の内装制限 2) 自動車庫等、特殊建築物の地階の居室の内装 ⑥ 手続き① 1) 確認申請の概要 2) 建築手続きに関する用語 3) 規模により確認申請を必要とする建築物 ⑦ 手続き② 1) 工作物の確認申請 2) 仮設建築物の確認申請 3) 用途変更する場合の確認申請 ⑧ 手続き③ 1) 中間検査 2) 完了検査 3) 仮使用の申請 ⑨ 手続き④ 1) 違反建築物の建築の防止 2) 届出及び統計 3) その他各種手続き ⑩ 防火地域・準防火地域内の建築物 ⑪ 防火地域・準防火地域の内外に関わらず耐火建築物・準耐火建築物等にならない特殊建築物

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル6割、中級レベル3割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確認するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築関係法令集 法令編 (総合資格学院)	講師オリジナルプリント	

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 建築法規Ⅱ

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科2年
建築設計デザイン科2年

担当教員 矢野 倫大

実務経験: 建築設計

目的	1年次の建築法規Ⅰに引き続き、二級建築士学科試験の法規の出題範囲における防火および避難の規定について、その規定が必要な理由を考えながら学習することにより、法令の目的と内容をより深く理解することをねらいとする。後半では、集団規定について学習し、担当教員の一級建築士の受験経験をもとに作成した演習問題を繰り返し解くことで二級建築士学科試験に合格するための必要な知識の習得を目標とする。
----	--

実務経験の生かし方	2年次は、建築基準法の防火区画や避難規定および集団規定を中心に学習することから、それらの規定について学ぶうえで、実際に携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。
-----------	--

授業概要	前期	
	① 防火区画① 1)防火区画の概要 2)高層階区画(令112条5項～8項) 3)壁穴区画 (令112条9項)	
	② 防火区画② 1)異種用途区画(令112条12項・13項) 2)面積区画の概要 3)面積区画(令112条1項～4項)	
	③ 避難規定① 1)避難規定の概要(令117)条 2)避難経路 3)避難のための直通階段	
	④ 避難規定② 1)メゾネット型住戸の歩行距離 2)2以上の直通階段を設けなければならない建築物	
	⑤ 避難規定③ 1)重複区間の制限 2)避難階・屋上広場の規定 3)非常用の照明装置 4)非常用の進入口	
	⑥ 道路① 1)道路の定義 2)位置指定道路 3)4m未満の道(2項道路)	
	⑦ 道路② 1)道路と敷地との関係 2)道路内の建築制限 3)その他の制限	
	⑧ 容積率① 1)延べ面積の限度の求め方 2)敷地が2以上の用途地域にわたる場合	
	⑨ 容積率② 1)特定道路に接続する道路に接する場合の容積率の算定 2)「容積率算定用の延べ面積」の特例	
	⑩ 容積率③ 1)建ぺい率の緩和・適用除外 2)敷地が防火地域の内外にわたる場合	
	⑪ 用途地域① 1)用途地域の概要 2)用途地域内の建築制限 3)用途制限チェックのポイント	
	⑫ 用途地域② 1)店舗併用住宅 2)建築物の敷地が異なる用途地域内にわたる場合	
	⑬ 高さ制限の概要	

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル5割、中級レベル4割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確認するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書 教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築関係法令集 法令編 (総合資格学院)	講師オリジナルプリント	

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 構造力学 I

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 鉾館 亮治

実務経験: 一般教員

目的	力の表し方と性質を理解し、力のつり合いに大切な反力の理解と部材にかかる応力と架構に於ける各部の力の流れを理解させ、安全で長期に渡って安定した建物を造るために必要な建築構造の基礎知識を教える。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 建物の働く力 力の表し方	① 構造物に生じる力
	② 力のモーメント	② 集中荷重が作用する単純梁
	③ 1点に働く力の合成と分解	③ 等分布荷重が作用する単純梁
	④ 平行な力の合成と分解	④ 等変分布荷重が作用する単純梁 モーメントが作用する単純梁
	⑤ 平行でない力の合成と分解 1点に働く力釣合い	⑤ 集中荷重が作用する片持梁 等分布荷重が作用する片持梁
	⑥ 作用点の違う力の釣合い	⑥ 等変分布荷重が作用する片持梁 モーメントが作用する片持梁
	⑦ 支点と節点 荷重および外力	⑦ 片持梁系ラーメン
	⑧ 反力 反力の求め方	⑧ 単純梁系ラーメン
	⑨ 反力の求め方(片持ち梁)	⑨ 3ピンラーメン
	⑩ 反力の求め方(単純梁)	⑩ 静定トラス節点法(図式解法、算式解法)
	⑪ 反力の求め方(静定ラーメン)	⑪ 静定トラス(切断法) 部材の性質と応力度
	⑫ 反力の求め方(3ピンラーメン)	
	⑬ 構造物の安定・不安定 構造物の静定・不静定	

評価方法	中間試験・期末試験 (授業態度を含め各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	--

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材	FirstStageシリーズ 建築構造設計概論	オリジナルプリント	

その他	二級建築士資格取得をレベルを目指す。授業中は私語・スマホ操作は一切禁止とする。平常点減点対象とする。
-----	--

教科名 構造力学Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	-

総時数
72

開講学科 建築学科2年
建築設計デザイン科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 一般教員

目的	建築物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計するうえで、必要な基礎的なことを学び、部材に生ずる力に対して、安全かつ経済的な部材を設計する基礎を学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 構造材料の力学的性質 垂直応力度・せん断応力度・ひずみ度	①
	② 構造材料の力学的性質 弾性体の性質・材料の強さ等	②
	③ 構造材料の力学的性質 材料の強さと許容応力度	③
	④ 断面の性質 断面1次及び2次モーメント	④
	⑤ 断面の性質 断面2次モーメント・断面係数等	⑤
	⑥ 中間試験傾向と対策	⑥
	⑦ 部材に生ずる応力度 梁の曲げ応力度・縁応力度等	⑦
	⑧ 部材に生ずる応力度 曲げ材の設計・引張材の設計	⑧
	⑨ 部材に生ずる応力度 圧縮材の設計	⑨
	⑩ 部材に生ずる応力度 たわみとたわみ角・モーメントの定理	⑩
	⑪ 不静定梁	⑪
	⑫ 期末試験の傾向と対策	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験(各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	---------------------------------------

教科書 教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)		

その他	
-----	--

教科名	建築施工 I
-----	--------

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科	建築学科 1年 建築設計デザイン科 1年
------	-------------------------

担当教員	鉾館 亮治
------	-------

実務経験 : 建築設計・施工

目的	建築工事の種類と工法について、安全管理を念頭に入れた技術的・経済的な内容について学習。 施工準備から躯体工事について学習していく。
----	--

実務経験の生かし方	建築設計及び施工管理の実務経験を活かして建築の仕事を伝えます。 現場でのエピソード等を交えて生徒に伝えたい。 講義は資料・現場写真等をプロジェクターで適時使用して講義する。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 施工準備と施工計画 建築施工とは、工事契約、積算	① 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事2(鉄筋1)
	② 施工準備と施工計画 施工計画	② 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事3(鉄筋2、型枠1)
	③ 施工準備と施工計画 施工管理	③ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事4(型枠2、コンクリート1)
	④ 施工準備と施工計画 地盤調査	④ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事5(コンクリート2)
	⑤ 施工準備と施工計画 測量	⑤ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事6(コンクリート3)
	⑥ 仮設工事と躯体工事 仮設工事(共通仮設)	⑥ 仮設工事と躯体工事 鉄骨工事(工場作業)
	⑦ 仮設工事と躯体工事 仮設工事(直接仮設)	⑦ 仮設工事と躯体工事 鉄骨工事(現場作業)
	⑧ 仮設工事と躯体工事 土工事(工程、山留め壁)	⑧ 仮設工事と躯体工事 コンクリートブロック
	⑨ 仮設工事と躯体工事 土工事(支保工、排水、根切り底)	⑨ 仮設工事と躯体工事 木工事1(在来軸組工法1)
	⑩ 仮設工事と躯体工事 基礎事業工事(地業、既成コンクリート杭)	⑩ 仮設工事と躯体工事 木工事2(在来軸組工法2)
	⑪ 仮設工事と躯体工事 基礎事業工事(場所打ちコンクリート杭他)	⑪ 仮設工事と躯体工事 木工事3(在来軸組工法3)、まとめ
	⑫ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事1(概要)、まとめ	

評価方法	中間試験・期末試験 (授業態度を含め各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 やさしい建築施工(学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築施工Ⅱ

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 出口 広訓

実務経験: 一般教員

目的	建築工事の進め方と管理についての技術的・経済的な内容について教える。 各種工事の施工方法について最新の技術を教える。特に、設計監理者としての立場からの事例や注意点等をあげ、安全管理をはじめ、デザインや経済性、材料の特性などについて具体的かつ包括的な視点を持たせ理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 仕上・設備工事 防水工事	①
	② 仕上・設備工事 屋根工事	②
	③ 仕上・設備工事 左官工事	③
	④ 仕上・設備工事 タイル工事	④
	⑤ 仕上・設備工事 張り石工事	⑤
	⑥ 仕上・設備工事 塗装工事	⑥
	⑦ 仕上・設備工事 建具工事、ガラス工事	⑦
	⑧ 仕上・設備工事 内装・断熱工事	⑧
	⑨ 仕上・設備工事 ユニット・その他工事、外装工事	⑨
	⑩ 仕上・設備工事 設備工事	⑩
	⑪ 機械と維持管理 施工機械、維持管理	⑪
	⑫ まとめ及びポイント解説	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	やさしい建築施工 (学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名	建築構造設計
-----	--------

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科	建築学科2年 建築設計デザイン科2年
------	-----------------------

担当教員	今 治 宣
------	-------

実務経験:	建築構造設計
-------	--------

目的	構造計画、構造設計の基礎知識を教える。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨造に関して、二次部材の断面算定等の部材設計の流れを理解させ、二級建築士受験程度の知識を教えることに重点をおく。
----	---

実務経験の生かし方	敬遠されがちな教科であるため、多方面からの見方、考えた方を説明し苦手意識を取り除くように教える。 また、実務経験に基づいた事例を紹介し、構造設計を身近に感じてもらえるように説明する。
-----------	--

授業概要	前期 構造力学・基礎の確認と復習 鉄筋コンクリート構造① 1)RC概論-1	後期 鋼構造④ 3)小梁の設計-2
	② 鉄筋コンクリート構造② 1)RC概論-2	② 鋼構造⑤ 3)小梁の設計-3 4)各部材設計の概要
	③ 鉄筋コンクリート構造③ 2)仮定荷重 3)床の設計-1	③ 鋼構造⑥ 5)二級建築士過去問題演習-1
	④ 鉄筋コンクリート構造④ 3)床の設計-2	④ 鋼構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2
	⑤ 鉄筋コンクリート構造⑤ 3)床の設計-3	⑤ 鋼構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3
	⑥ 鉄筋コンクリート構造⑥ 4)各部材設計の概要 5)二級建築士過去問題演習-1	⑥ 鋼構造⑨ 5)二級建築士過去問題演習-4
	⑦ 鉄筋コンクリート構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2	⑦ 構造計画と荷重① 1)構造計画概論
	⑧ 鉄筋コンクリート構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3	⑧ 構造計画と荷重② 2)荷重概論 3)地震力と保有水平耐力
	⑨ 鉄筋コンクリート構造⑨ 5)二級建築士過去問題演習-4	⑨ 構造計画と荷重③ 4)二級建築士過去問題演習-1
	⑩ 鋼構造① 1)S概論-1	⑩ 構造計画と荷重④ 4)二級建築士過去問題演習-2
	⑪ 鋼構造② 2)引張材と圧縮材の設計-1 鋼構造③	⑪ 構造計画と荷重⑤ 4)二級建築士過去問題演習-3
	⑫ 2)引張材と圧縮材の設計-2 3)小梁の設計-1	⑫
	⑬ 鉄筋コンクリート構造⑩ 6)総復習	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価 (評価対象は定期試験結果100%とする)
------	--

教科書 教材	教科書 建築構造設計概論(実教出版)	教材 演習問題(講師オリジナル) 二級建築士過去問題	備考

その他	二級建築士試験の学科Ⅲのうち、鉄筋コンクリートと鉄骨造に関しては8割以上の正解率を目指す
-----	--

教科名 建築積算

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科 2年

担当教員 畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	建築積算の基本ともいえる設計図書から建築物の数量を計測・計算する方法を教え、実務の事例を踏まえ、建築の生産活動をコスト面からマネジメント(管理)するという基本的な考え方を理解することを目的とします。また、建築積算士補の資格取得を目的とします。
----	---

実務経験の生かし方	建築設計の実務経験を基に、設計図書や内訳書の見方、数量の計測・計算方法などを学び理解してもらう。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① オリエンテーション 建築積算とは ② 建築生産プロセスの概要と建築積算 ③ 入札とは (入札の種類 工事の発注・契約方式 数量公開) ④ 積算業務の概要 (積算業務の流れ) ⑤ 設計図書とは① (設計図書の構成と種類・仕様書の種類と優先順位) ⑥ 設計図書とは② (設計図書の構成と種類・仕様書の種類と優先順位) ⑦ 工事費の構成 (工事費とは何か) ⑧ 工事費の構成 (工事費の構成と工事費の計算) ⑨ 内訳書とは (内訳書とはどのようなものか) ⑩ 内訳書の作成① (内訳書の役割・内訳書の基本事項) ⑪ 内訳書の作成② (内訳書の見方・内訳書の記載方法について) ⑫ 前期まとめ ⑬ ⑭ ⑮	① 建築数量積算基準 ② 数量の計測・計算(土工) (土工・地業の数量計算の仕方)例題演習 ③ 数量の計測・計算(躯体1) (基礎の数量計算の仕方)例題演習 ④ 数量の計測・計算(躯体2) (梁の数量計算の仕方)例題演習 ⑤ 数量の計測・計算(躯体3) (柱の数量計算の仕方)例題演習 ⑥ 数量の計測・計算(躯体4) (床板の数量計算の仕方)例題演習 ⑦ 数量の計測・計算(仕上1) (例題演習による仕上げ積算) ⑧ 数量の計測・計算(仕上2) (例題演習による仕上げ積算) ⑨ 仮設工事の積算① 設備工事の積算 建築積算の応用分野 ⑩ 仮設工事の積算② 設備工事の積算 建築積算の応用分野 ⑪ 後期まとめ 建築積算士補試験対策 ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価 後期期末試験は、建築積算士補の資格試験兼用とする
------	--

教科書 教材	教科書 建築積算 (日本建築積算協会)	教材 建築積算(別冊)	備考

その他	
-----	--

教科名 建築測量

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科 2年

担当教員 柴田 達也

実務経験: 一般教員

目的	地表上の必要な諸点相互の関係位置をはかり、図面上の諸点や線を設定する作業をおこなう測量に関する、機械・器具の構造や操作と、距離・角度・高さを測定するために必要な知識、測定方法および作業技術、さらに建築の工事現場で行われている工事測量の基本について学習する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 第1章 建築と測量の関わり ① 1 建築測量とは 2 測量技術のあゆみ 3 測量の基準・分類	第5章 敷地の水準測量 ⑧ 1 水準測量の分類・器具等 2 野帳の記入方法
	第1章 建築と測量の関わり ② 4 測量の分類 第2章 測量の計算 1 数値計算	第5章 敷地の水準測量 ⑨ 3 水準測量演習
	第2章 測量の計算 ③ 2 三 角関数と角度 3 角度の換算・電卓での計算	第6章 トランシット測量 ⑩ 1 トランシット測量の概要 2 トランシットの構造
	第3章 敷地の距離測量 ④ 1 距離の定義・分類・器具 2 平坦地・傾斜地の測量 3 距離測量誤差と許容誤差	第6章 トランシット測量 ⑪ 3 水平角の測定実習
	第4章 敷地の面積測量 ⑤ 1 面積測量に用いる器具 2 平板の標定(求心・標準・定位)	第7章 工事測量 ⑫ 1 標示の方法 2 各種工事の測設
	第4章 敷地の面積測量 ⑥ 3 平板測量による面積測量 4 平板の誤差と精度 5 面積の計算方法	⑬ 期末試験の傾向と対策
	⑦ 中間試験の傾向と対策	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点
------	------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図説建築測量(産業図書)		

その他	
-----	--

教科名 **建築設備 I**

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **夏川 勇**

実務経験: **一般教員**

目 的	近年、建物の利便性を決定づける設備は、益々重要になっています。そのため、設備の知識は建築技術者に欠かせないものです。本講座は、実務に必要な基礎知識習得と、建築士合格に必要な知識習得を目標とします。
-----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 給排水・衛生設備の概要 水圧と単位、上水、中水、給水方式
	②	② 給水計算
	③	③ 配管と水栓・弁 キャピテーションと水撃作用
	④	④ 受水槽と高置水槽、屋内配管方式 吐水口空間、給湯設備
	⑤	⑤ 排水の種類、排水管、排水枡 間接排水
	⑥	⑥ トラップ、排水の放流 通気管と通気方式
	⑦	⑦ 通気方式の注意点 衛生器具
	⑧	⑧ 合併浄化槽、ガス設備 消火設備(消防法)
	⑨	⑨ 警報設備(消防法)、避難設備(消防法) 消火活動上必要な施設(消防法)
	⑩	⑩ 建築基準法の避難・消火設備 屋内消火栓設備、スプリンクラー設備
	⑪	⑪ 特殊消火設備
	⑫	⑫ 特殊消火設備
	⑬	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築環境・設備(学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 **建築設備Ⅱ**

	前期	後期	総時数
コマ数	1	-	36

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **夏川 勇** 実務経験: **一般教員**

目 的	近年、建物の利便性を決定づける設備は、益々重要になっています。そのため、設備の知識は建築技術者に欠かせないものです。本講座は、実務に必要な基礎知識習得と、建築士合格に必要な知識習得を目標とします。
-----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期	後期
	① 伝熱現象、暖房の分類 各種暖房の種類と特徴	①
	② 壁体の伝熱と熱貫流率 損失熱量の計算	②
	③ 暖房時の室内熱負荷算定 蒸気暖房と温水暖房	③
	④ 放射暖房と温風暖房 放熱器	④
	⑤ 空気線図の理解と利用方法	⑤
	⑥ 冷房時の室内熱負荷算定 乾球温度と湿球温度	⑥
	⑦ 室内環境基準 空気調和設備の概要	⑦
	⑧ 空調方式Ⅰ(基本方式)	⑧
	⑨ 空調方式Ⅱ(最新・特殊・省エネ) ヒートポンプ	⑨
	⑩ 冷凍機 冷却塔	⑩
	⑪ 加湿器とダクト 換気設備	⑪
	⑫ 省エネルギーと環境保全	⑫
	⑬ 避雷設備	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築環境・設備(学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 電気設備

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科1年

担当教員 南山 幸雄

実務経験: 一般教員

目 的	交流と直流の違いといったきわめて基礎的な説明から、建物の機能または性能の源となる電気設備について、ほとんど基礎知識のない初心者でも十分に理解できるように説明する。特に建築電気設備の重要性が一層高まるなかで、快適環境を形成する技術としての電気設備について、最新の情報をふまえて理解させる。
-----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 建築電気設備の概要 電気の一般知識	後期
	①	①
	② 電気の基礎1 電子と電流、オームの法則	②
	③ 電気の基礎2 抵抗の接続と合成抵抗値、直流回路とブリッジ回路	③
	④ 電力と電力量 電流の発熱作用、電力量と熱量の関係	④
	⑤ 交流の基礎 直流と交流、交流の周波数について、交流回路の基本	⑤
	⑥ 交流の電力 単相交流回路の電力と力率	⑥
	⑦ 電気の保安と電気方式 電気用品安全法と電気工事士法、	⑦
	⑧ 単相三線 式、電線の種類と許容電流	⑧
	⑨ 電線・ケーブルの種類、電線工事の種類	⑨
	⑩ 屋内幹線について 幹線の許容電流、需要率、幹線の施設・太さ	⑩
	⑪ 分岐回路と接地工事 分岐回路の施設・種類、電路の絶縁・接地	⑪
	⑫ 照明の基礎 蛍光灯、LED、	⑫
	⑬ 照度計算、照明方式	⑬
	⑭ 住宅の配線図 電灯配線図、配線図用図号	⑭

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	入門テキスト 建築環境・設備 (学芸出版社)	関連内容プリント	

その他	
-----	--

教科名 建築士講座 計画

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 建築学科 2年

担当教員 戸巻 美樹

実務経験: 建築設計

目的	2級建築士学科試験の学科Ⅰ計画問題の概要と出題傾向を知る。今まで学習してきた建築計画・建築史・環境工学・建築設備の内容を再確認しつつ、実務で必要となる知識を意識して、理解する。
----	--

実務経験の生かし方	2級建築士の試験内容において、実務で必要となる知識は特に実例を交えながら、問題解説の説明を行う。そうすることにより、試験の為だけの知識ではなく、生きた知識として身に付けてもらう事を心掛ける。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 環境① 気候・空気
	②	② 環境② 熱、光
	③	③ 環境③ 音、色彩
	④	④ 環境④ 環境全般、用語、単位
	⑤	⑤ 設備① 空気調和設備、給水設備
	⑥	⑥ 設備② 排水・衛生設備、電気設備、照明設備
	⑦	⑦ 設備③ 消火・防災設備、省エネルギー
	⑧	⑧ 設備④ 設備用語、設備融合
	⑨	⑨ 計画① 住宅建築、商業建築、公共建築
	⑩	⑩ 計画② 各種建築、建築生産、都市計画、計画各論
	⑪	⑪ 建築史 日本建築史、建築史融合
	⑫	⑫ 総合問題
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書	教科書	教材	備考
教科書 教材		2級建築士試験学科 ポイント整理と確認問題 (総合資格学院)	

その他	
-----	--

教科名 建築士講座 法規

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 建築学科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験： 確認申請の審査

目的	2級建築士試験対策の一環として、建築法規Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を試験問題の演習形式で復習する。
----	---

実務経験の生かし方	受験に際して特に重要なポイントを抽出し、実務経験をもとに実態に即した具体的で詳細な解説を行うことで、法律に対する理解を深める。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 単体規定 ・用語の定義
	②	② 一般構造 ・構造強度
	③	③ 防火と内装制限 ・避難規定
	④	④ 集団規定 ・道路と敷地
	⑤	⑤ 用途地域 ・建ぺい率・容積率
	⑥	⑥ 高さ制限 ・防火地域
	⑦	⑦ 手続き規定 ・確認と許可
	⑧	⑧ 工事の着工と完了 ・罰則規定
	⑨	⑨ 関連法規 ・都市計画法
	⑩	⑩ 消防法 ・バリアフリー法
	⑪	⑪ 品確法 ・耐震改修促進法
	⑫	⑫ 建築士法 ・建設業法
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間と期末による100点満点の平均点で評価する。
------	--------------------------

教科書 教材	教科書 建築関係法令集	教材 オリジナルプリント	備考

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座 構造

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 建築学科 2年

担当教員 秋谷 智史

実務経験: 一般教員

目的	2級建築士学科試験の「構造」について、過去問分析による傾向と合格に必要なポイントをおさえた学習方法を教える。短期間の中で、特に力学の計算問題について、基礎的事項の整理とともに問題が解ける理解力がつくようになることを目的とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 試験概要説明
	②	② カ・モーメント
	③	③ 力のつり合い
	④	④ 静定梁の反力・応力
	⑤	⑤ 静定ラーメンの反力・応力
	⑥	⑥ 演習問題
	⑦	⑦ 中間試験解説
	⑧	⑧ 断面一次モーメント
	⑨	⑨ 断面二次モーメント
	⑩	⑩ 座屈
	⑪	⑪ 演習問題
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価
------	------------------------------

教科書	教科書	教材	備考
教科書教材	建築構造設計概論(実教出版)	オリジナルプリント	

その他	2級建築士試験
-----	---------

教科名 建築士講座 施工

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 建築学科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験 建築設計・施工

目的	卒業後に受験する二級建築士の学科試験の対策として、知識習得及び建築施工全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	---

実務経験の生かし方	現場施工管理の経験を活かして建築の仕事を伝えます。 更に資格優先の業界であり「建築士の早期取得の必要性」を伝えたい。 現場施工管理業務の厳しさの中にも建物が出来上がった際の喜び・感動等をエピソードを交えて伝えます。
-----------	---

授業概要	前期	後期
		① 第1講 契約・仕様書・申請・届・監理業務
		② 第2講 施工計画・工程管理 ネットワーク工程
		③ 第3講 安全管理・材料管理
		④ 第4講 仮設工事・地盤・杭・土工事 第5講 鉄筋工事、型枠工事
		⑤ 第6講 コンクリート工事
		⑥ 第7講 鉄骨工事・補強コンクリートブロック工事
		⑦ 第8講 木工事・防水工事 第9講 左官工事、タイル・石工事
		⑧ 第10講 塗装工事・建具・ガラス工事
		⑨ 第11講 内装・断熱工事・設備工事 第12講 各種工事・工法・施工機械
		⑩ 第13講 積算・測量
		⑪ 全体まとめ

評価方法	①中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 (必要に応じて授業成績を最大▲5点を加味する)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・イラストでわかる二級建築士用語集 (学芸出版社)	講師オリジナルプリント	
	・建築施工テキスト (井上書院)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座 設計製図

	前期	後期
コマ数	-	1

総時数
38

開講学科 建築学科・建築設計デザイン科2年

担当教員 畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	過去の2級建築士の製図の問題を教材として利用し、基礎的な作図方法、取り組方の習得を目的とし、製図試験に必要な知識と理解を深め、2級建築士製図試験の合格の礎となるように課題を進めることを目指す。
----	--

実務経験の生かし方	実際の設計図を利用して実務と製図試験の違いについて教えます。また実務で製作した模型を活用して立体的に空間を認識できるように教えます。設計事務所の実務についてエピソード踏まえ話しながら設計製図の基本を教えます。
-----------	--

授業概要		後期
		① 1)製図試験の概要説明 2)課題1 木造住宅練習問題:平面図
		② 課題1 木造住宅練習問題:平面図
		③ 課題1 木造住宅練習問題:平面図
		④ 課題1 木造住宅練習問題:立面図
		⑤ 課題1 木造住宅練習問題:断面図
		⑥ 課題1 木造住宅練習問題:伏図
		⑦ 課題1 木造住宅練習問題:面積表、詳細図
		⑧ 課題2 RC住宅練習問題:平面図
		⑨ 課題2 RC住宅練習問題:平面図
		⑩ 課題2 RC住宅練習問題:立面図
		⑪ 課題2 RC住宅練習問題:断面図
		⑫ 課題2 RC住宅練習問題:面積表、詳細図
		⑮

評価方法	提出課題による100点満点の平均点数 課題提出90% 出欠席10%、計100%での評価
------	--

教科書 教材	教科書 建築士講座 設計製図	教材 実践課題NO1 実践課題NO3	備考
-----------	-------------------	--------------------------	----

その他	
-----	--

教科名 施工管理講座

	前期	後期
コマ数	1	0.5

総時数
55

開講学科 建築学科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験 建築設計・施工

目的	二級建築施工管理技術検定 学科試験合格のための知識習得及び施工を中心とした建築全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	---

実務経験の生かし方	現場施工管理の経験を活かして建築の仕事を伝えます。 計画・着工・施工管理・竣工・アフターまで厳しさの中にも出来上がった時の喜び また自分の手掛けた作品が将来的にも残る嬉しさ等々を現場エピソードを交えて 生徒に伝えたい。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① ●法規 建築基準法 ② ●法規 建設業法・労働基準法 ③ ●施工管理法 労働安全衛生法・その他の法律 ④ ●施工管理法 施工計画・工程管理 ⑤ ●施工管理法 品質管理・安全管理 ⑥ ●建築学 建築材料 ⑦ ●建築学 一般構造 ⑧ ●建築学 構造力学 ⑨ ●建築学 計画原論 ⑩ ●共通 設備他 ⑪ ●施工(躯体工事) (地盤・仮設・土・山留・基礎地業) ⑫ ●施工(躯体工事) (鉄筋・型枠) ⑬ ●施工(躯体工事) (コンクリート)	① ●施工(躯体工事) (鉄骨・木) ② ●施工(仕上工事) (防水・屋根・金属) ③ ●施工(仕上工事) (左官・石・タイル・建具) ④ ●施工(仕上工事) (内装・塗装) ⑤ ●施工(仕上工事) (建設機械・積算測量)

評価方法	①中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 (必要に応じて授業成績を最大▲5点を加味する)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	2級建築施工管理技士 過去問題解説集 (総合資格学院)		

その他	
-----	--

教科名 建築製図演習 I

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科1年

担当教員 森 雅宏

実務経験: 建築設計

目 的	前期:木造住宅建築図、後期:RC造集合住宅建築図の教材を使用し、建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、更に各種構造物の内容を理解を目指す。 後期:鉄筋コンクリート構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄筋コンクリート構造の設計図を正しく読み、製図する能力を身につけることを目指す。
-----	--

実務経験の生かし方	設計経験を活かし、手描きの図面の基本である姿勢を正して描くことと、正しいペンの持ち方の必要性を説き、手本を真似て書くのではなく、描き順をしっかりと覚え、手本がなくても図面を描けるよう指導します。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 用具の使い方、線の描き方 課題1 レイアウトと線 ② 課題2 木造住宅の製図 平面図・配置図 ③ 課題2 木造住宅の製図 平面図・配置図 ④ 課題2 木造住宅の製図 平面図・配置図 ⑤ 課題2 木造住宅の製図 平面図・配置図 ⑥ 課題2 木造住宅の製図 平面図・配置図 ⑦ 課題3 木造住宅の製図 立面図・断面図 ⑧ 課題3 木造住宅の製図 立面図・断面図 ⑨ 課題3 木造住宅の製図 立面図・断面図 ⑩ 課題3 木造住宅の製図 立面図・断面図 ⑪ 課題4 木造住宅の製図 矩計図 ⑫ 課題4 木造住宅の製図 矩計図 ⑬ 課題4 木造住宅の製図 矩計図 ⑭	① 授業の進め方、課題説明 ② 課題① 平面詳細要素の製図 ③ RC造の図面の見方書き方 ④ 課題② 平面詳細図の製図 ⑤ 平面図の表現の仕方 ⑥ 課題③ 断面詳細図の製図 ⑦ 断面図の表現の仕方 ⑧ 課題④ 展開図の製図 ⑨ 展開図の表現の仕方 ⑩ 最終評価・講評 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

評価方法	提出課題による100点満点の平均点数 課題提出90% 出欠席10%、計100%での評価
------	--

教科書 教科書 教材	教科書	教材	備考
	初めての建築製図(学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 建築製図演習Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	-

総時数
72

開講学科 建築学科2年

担当教員 銚館 亮治

実務経験: 建築設計・施工

目的	鉄骨構造の建築製図について、基本的な知識と技術を習得することを目指す。設計の実務に即して鉄骨構造の設計図を正しく読み、製図する能力と取り組む姿勢を身に付けることを目指す。
----	---

実務経験の生かし方	製図の知識・技能を習得するために、作図の方法・鉄骨造建築物の理解・設計図書から情報収集する際の要点など、実務経験を生かして指導する。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方、課題説明	①
	② 課題① 平面詳細図の製図	②
	③ 鉄骨構造の図面の見方	③
	④ 図面の基本的書き方	④
	⑤ 部分詳細の説明	⑤
	⑥ 図面の表現の仕方	⑥
	⑦ 課題② 矩計図の製図	⑦
	⑧ 矩計図の書き方	⑧
	⑨ 部分詳細の説明	⑨
	⑩ 最終評価・講評	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。
------	-------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント(2号館校舎設計図書)	

その他	
-----	--

教科名 建築計画演習(前期)

	前期	後期
コマ数	4	-

総時数
144

開講学科 建築学科1年

担当教員 鉾館 亮治

実務経験: 建築設計・施工

目 的	設計課題「趣味室のある住宅」(木造2階建て)を通して、設計コンセプトのまとめ方、プランニングの進め方、設計の基本事項などの理解を図る。
-----	---

実務経験の生かし方	実務経験に基づいて、設計の難しさや楽しさ、やりがいを伝える。また、模型や図面を用いたプレゼンテーションのテクニックを伝える。
-----------	--

授業概要	前期	
	・設計課題の説明及び資料収集	
	・コンセプトの表現	
	・ブロックプランの進め方	
	・エスキスのまとめ方 (配置、平面、立面、断面)	
	・製図(A2ケント紙2枚)鉛筆下書き及びロットリングによる墨入れ	
	・着色によるプレゼンテーション図面の作成	
	・縮尺1/100 模型作成	
	立面図・断面図完成	
	15)	

評価方法	中間(ブロックプラン、エスキスによる採点)、期末(プレゼンテーション図面、模型による採点)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築計画・設計シリーズ 「新・住宅Ⅰ」(市ヶ谷出版)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名

建築計画演習(後期)

	前期	後期
コマ数	-	3

総時数

114

開講学科

建築学科1年

担当教員

成田 康博

実務経験:

建築設計・監理

目的

設計課題「市街地に建つ幼稚園」を通して、設計コンセプトのまとめ方・プランニングの進め方・設計の基本事項などの理解を図る。
実務で得た知識と経験に基づき、条件整理～コンセプト～エスキス～成果品(図面・模型)の作成に至るプロセスを解説する。

実務経験
の生かし
方

実際に関わった設計について、複数の計画案の設計図書をプリントで紹介し、設計業務の理解を深めるための教材として活用する。
更に、設計の前段にある設計計画の進め方や事前の調査、関係官庁への申請・届出についての内容を実務経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。

授業概要

前期

後期

①

① 課題の説明・授業の日程説明

②

② テーマの設定・ブロックプランの作成

③

③ ブロックプランのチェック・提出

④

④ エスキスの開始(エスキス内容説明)

⑤

⑤ エスキスの作成(配置図・平面図)

⑥

⑥ エスキスの作成(立面図・断面図)

⑦

⑦ エスキスのチェック・提出

⑧

⑧ 成果品の内容説明・図面作成開始

⑨

⑨ 図面下書き・スミ入れ

⑩

⑩ 図面スミ入れ・着彩指導・模型制作

⑪

⑪ 模型制作・指導
成果品(図面・模型)の提出

⑫

⑫

⑬

⑭

⑮

評価方法

・中間(ブロックプラン40点・エスキス60点の合計点による評価)
・期末(プレゼンテーション図面50点・模型による採点50点の合計点による評価)
・学年(中間・期末得点の平均点による評価)

教科書
教材

教科書

教材

オリジナルプリント教材

備考

その他

教科名 建築設計演習

	前期	後期
コマ数	3	-

総時数
108

開講学科 建築学科 2年

担当教員 戸巻 美樹

実務経験: 建築設計

目的	住宅地に建つ診療所を設計する。実務の設計で必要となる設計留意点を教えながら、患者それぞれの立場で適切な動線計画・単位計画をする。また、関係法規はもとより、自然・人間・モノとの関係、安心・安全の確保、周辺との景観調和も考えつつ、親しみがあり、使いやすく、快適な空間となる設計手法を習得する。
----	--

実務経験の生かし方	建築設計を行う上で、ブロックプランからエスキスに至る考え方を実務経験から説明していく。診療所という用途を十分に理解した上で、どのような事が設計に盛り込まれるべきか、デザインと機能を考えながらプランをまとめていく手法を伝える。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 設計概要把握 ・診療所の機能、法規チェック	①
	② 条件の説明と把握 ・ブロックプラン	②
	③ 平面・配置エスキス①	③
	④ 平面・配置エスキス②	④
	⑤ 平面・配置エスキス③	⑤
	⑥ エスキス総合(平面・立面・断面)① S=1/100	⑥
	⑦ エスキス総合(平面・立面・断面)② S=1/100	⑦
	⑧ エスキス総合(平面・立面・断面)③ S=1/100	⑧
	⑨ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ①	⑨
	⑩ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ②	⑩
	⑪ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ③	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験:エスキスによる100点満点評価 期末試験:図面・模型・パースによる100点満点評価
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	新建築設計ノート「診療所・医院」 (彰国社)		

その他	
-----	--

教科名

卒業設計演習

	前期	後期
コマ数	-	4.5

総時数
171

開講学科

建築学科2年

担当教員

鉾館 亮治

実務経験:

建築施工・設計

目 的	これまでの授業で学んだ建築知識を基に、卒業設計課題の構想・作図・模型制作を通してより向上させ、建築知識を高める。実務では重要な「計画立案」から「プレゼンテーション」までの流れを理解してもらう。着想から形を具現化する事の重要性を実感させる。
-----	---

実務経験の生かし方	これまで設計・施工に関わってきて、クライアントが希望する建物を提案してプレゼンテーションすることも大切さを、実際に課題に取り組むことにより実感を感じてもらい、一層建築知識を深めてほしいと思います。
-----------	--

授業概要	後期	
	1) 夏季休暇中に考えた課題の検討	18) 模型製作3
	2) エスキス作成	19) 模型製作4
	3) 検討1	20) 模型製作5
	4) エスキス作成	21) 模型製作6
	5) 検討2	22) 模型製作7
	6) エスキス決定	23) 模型製作8
	7) 平面図作成1	24) 模型製作9
	8) 平面図作成2	25) 模型製作10
	9) 平面図作成3	26) プレゼン作成1
	10) 平面図作成4	27) プレゼン作成2
	11) 立面図作成1	28) プレゼン作成3
	12) 立面図作成2	29) プレゼン作成4
	13) 立面図作成3	30) 完成
	14) 立面図作成4	31) 手直し1
	15) 立面図・平面図提出・評価	32) 手直し2
	16) 模型製作1	33) 手直し3
	17) 模型製作2	34) 作品発表

評価方法	プラン図(CAD:手書き)提出で100点(中間評価)、模型提出で100点(期末評価)とします。提出期限厳守。授業態度による減点(-3点~)あり。授業毎の進捗状況により評価もあり。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	なし	・オリジナルプリント ・図書コーナーの建築図書	

その他

教科名 建築CAD演習 I（前期）

	前期	後期
コマ数	2	-

総時数
72

開講学科 建築学科 1年

担当教員 余湖 祥博

実務経験: 一般教員

目的	アプリケーションソフトはAutoCADを使用しCADの基本的な考え方やその操作の基本であるコマンド知識・図形の編集方法を理解し、効率の良い図面作成を目指すとともに、その印刷手段の基礎を学ぶ。また、CAD検定試験受験のための基礎知識を養う。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① CADの特徴・目的の理解 基本操作と起動・保存・終了	①
	② 座標入力・作図コマンドの活用法	②
	③ 円の作成・一時オブジェクトスナップの活用・円弧・多角形コマンドの理解	③
	④ 文字・寸法入力 I 方法 各種編集方法	④
	⑤ 図形 編集操作 移動・コピー・回転・尺度変更の活用	⑤
	⑥ 図形 編集コマンド トリム・オフセット・配列等の活用法	⑥
	⑦ 基礎演習問題	⑦
	⑧ 応用コマンド演習	⑧
	⑨ モデル空間について 設定と作図演習（印刷方法）	⑨
	⑩ ペーパー空間について 設定と作図演習（印刷方法）	⑩
	⑪ 課題問題 I	⑪
	⑫ 課題作図 II コマンド復習・印刷方法	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 小課題の提出
------	-----------------------------------

教科書	教材	備考
教科書 教材	初めて学ぶAutoCAD 作図・操作ガイド (ソーテック社)	

その他	目標: 建築CAD検定試験3級受験 基礎知識
-----	------------------------

教科名 建築CAD演習 I (後期)

	前期	後期
コマ数	-	2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 余湖 祥博

実務経験: 一般教員

目的	前期で習得したAutoCADの基本操作を用い、木造住宅の建築図面の作図とプレゼンテーション方法を習得する。授業中盤からは建築CAD検定3級の様々な過去問題の作図を行う。実務経験上の図面表現方法や効率的な作図方法等について示しながら演習を行うことで、建築図面を早く、正確に作図する技術を身に付け、建築CAD検定3級資格取得を目指す。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	AutoCADによる基本図面①: 木造住宅の平面図
	②	AutoCADによる基本図面②: 木造住宅の立面図
	③	AutoCADによる基本図面③: 図面の体裁、着色、印刷設定
	④	建築CAD検定3級対策: 試験の概要、過去問題による演習①
	⑤	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習②
	⑥	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習③
	⑦	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習④
	⑧	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習⑤
	⑨	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習⑥
	⑩	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習⑦
	⑪	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習⑧
	⑫	建築CAD検定3級対策: 過去問題による演習⑨
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書 初めて学ぶAutoCAD 作図・操作ガイド (ソーテック社)	教材 オリジナルプリント	備考

その他	
-----	--

教科名 建築CAD演習Ⅱ(前期)

	前期	後期
コマ数	2	-

総時数
72

開講学科 建築学科 2年

担当教員 大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	建築設計におけるプレゼンテーションツールとして3Dモデル作成技術を教える。特に後半では課題を中心に授業を進め、設計図をもとにした正確なモデリングや応用技術を習得させる。実務経験上のプレゼンテーション方法や表現について事例をあげ、他者へのプレゼンテーションをはじめ、設計補助のツールとしても実践的に用いることができるようになることを目標とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① SketchUPの概要と基本操作①: モデリングツールの操作、マテリアルの設定等	①
	② 課題①小規模建築物の外観モデリング	②
	③ SketchUPの基本操作②: 図形の移動・複製・回転、正多角形の作成等	③
	④ 課題②: 休憩所のモデリング	④
	⑤ SketchUPの基本操作③: 長さの計測、補助線の作成、角度指定モデリング等	⑤
	⑥ 課題③: 切妻住宅の外観モデリング	⑥
	⑦ SketchUPの基本操作④: 視点の切り替え、レイヤ、モデルの断面表示の方法	⑦
	⑧ 課題④: 店舗付き事務所ビル of モデリング(外観)	⑧
	⑨ 課題④: 店舗付き事務所ビル of モデリング(内観)	⑨
	⑩ 課題⑤: 2階建て住宅 of モデリング(外観)	⑩
	⑪ 課題⑤: 2階建て住宅 of モデリング(外観)	⑪
	⑫ 課題⑤: 2階建て住宅 of モデリング(内観)	⑫
	⑬ 課題⑤: 2階建て住宅 of モデリング(内観)	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 建築CAD演習Ⅱ（後期）

	前期	後期
コマ数	-	2

総時数
76

開講学科 建築学科 2年

担当教員 大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	CADシステムとJw-cadの基本操作の理解と基本図形等の作図を行いながら、CAD操作技術を教える。また木造住宅の平面図を作図しながら、作図技術を習得できるよう教える。早く正確な図面作成が求められることを理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① Jw-cad基本操作① 直線の書き方 ファイル保存方法他
	②	② Jw-cad基本操作② 四角形の書き方 文字の書き方 [戻る]と[進む]他
	③	③ Jw-cad基本操作③ 図形の選択 図形の複写と移動他
	④	④ Jw-cad基本操作④ 2線 中心線 包絡処理他
	⑤	⑤ Jw-cad基本操作⑤ 面取り ハッチング他
	⑥	⑥ Jw-cad基本操作⑥ レイヤ 属性変更 パラメトリック変形他
	⑦	⑦ Jw-cad基本操作⑦ 文字の編集 寸法線 レイヤグループ他
	⑧	⑧ Jw-cad基本操作⑧ 輪郭線 表題の書き方他
	⑨	⑨ 建築CAD作図演習1(平面図)
	⑩	⑩ 建築CAD作図演習2(1階・2階平面図)
	⑪	⑪ 建築CAD作図演習3(1階・2階平面図)
	⑫	⑫ 建築CAD作図演習課題提出
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験はJw-cadの基本操作を踏まえた作図試験(建築CAD検定3級程度)により100点満点評価とする。期末試験は行わずに、課題による評価(1階・2階平面図)と日常の授業中における作業取組姿勢により評価する(-5点/-10点)。
------	---

教科書 教材	教科書 なし	教材 オリジナルプリント	備考

その他	建築CAD検定2級の資格取得を目指す。Jw-cad操作を確実に覚え正確な作図をすること。
-----	--

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科 1年

担当教員 大野 佳月

実務経験: 一般教員

目的	実務経験上、お客様に設計意図をより判りやすく説明する為のプレゼンテーションにおいて、図面の他に模型やパースが重要な役割をめている。授業では模型やパースの基礎から設計課題(各自で設計)をより良く表現する為の方法を理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方 プレゼンテーションの必要性解説 ② (模型) 道具・材料説明 コーナーの製作 ③ (模型) 「100角ビル」のモデリングの説明 図面の理解・スケール変更・壁の作成 ④ (模型) 図面の理解・スケール変更 壁・出入口の作成 ⑤ (模型) 図面の理解・スケール変更 窓の説明・窓の作成 ⑥ (模型) 図面の理解・スケール変更 調整・仕上げ ⑦ (図面表現) 印刷平面図に着色説明 テラスの自由デザイン説明 ⑧ (図面表現) 印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法・立体感のある木の表現方法 ⑨ (図面表現) 印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 芝生の表現方法 ⑩ (図面表現) 印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 室内床・家具の表現方法 ⑪ (図面表現) 印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 テラスの表現方法 ⑫ (図面表現) 印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 仕上げ ⑬ ⑭ ⑮	(パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」作図説明 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」画面枠の作図 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」窓の作図 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」ベット・机の作図 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」椅子の作図 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」照明器具の作図 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色 (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色 仕上げ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より作図説明 (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より壁・窓の作図 (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より出入口の作図 (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より歩道の書き方説明・作図・仕上げ ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	中間・期末の提出課題100点満点評価
------	--------------------

教科書 教科書 教材	教科書	教材	備考
	見てすぐわかる建築模型の本 (彰国社)	100角キューブ建築:図面一式 1点透視図:図面一式 パース:透視図プリント	

その他

教科名 色彩造形演習

	前期	後期
コマ数	-	2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 高木 順子

実務経験: 一般教員

目的	建築を計画、デザインするうえでの造形の基礎的な技法及び見方・考え方を教える。作品を制作するプロセスを体験し、考える方法を理解するように指導する。より立体的に表現出来るように作品性の高いものを完成させ、以降の学生自身の制作に役立つように指導する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	①	後期
	②	① 1)授業内容及び用具の説明、2)建築デザインに対する考え方について、3)自分の造りたい建物についてのラフスケッチ、自分の中にある建物について考える、4)スケッチ完成
	③	デザイン表現の基礎として、グラデーションを描く、鉛筆による明暗のグラデーション
	④	鉛筆デッサン—ガラス瓶・アルミ缶 素材の形体及び質感を表現する
	⑤	北海道立近代美術館見学 美術館建築を体感し、美術作品を観る。
	⑥	平面構成—マチエールの違いによる構成 質感の違いを表現する、√の長方形
	⑦	「マチエールの違いによる構成」 ケント紙で質感の違うパーツを製作
	⑧	「マチエールの違いによる構成」 造ったパーツを美しく構成する。
	⑨	立体構成—動きのある内部空間をデザインする
	⑩	立体構成—制作・彩色 より動きを表現するためのグラデーションで行う
	⑪	立体構成、組み立て、仕上げ
	⑫	
	⑬	
	⑭	
	⑮	⑮

評価方法	提出作品による評価(100点満点)
------	-------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	なし 必要に応じてプリントを配布する	スケッチブック1冊 鉛筆・色鉛筆 他	

その他	
-----	--

教科名 建築BIM演習

	前期	後期	総時数
コマ数	-	1	38

開講学科 建築学科2年、建築設計デザイン科2年

担当教員 銚館 亮治 実務経験: 一般教員

目的	BIMの概念を学び、2DCADとの違いを理解し、次世代ツールを体感する。 建物作図演習を通して基本操作を習得し、モデリングする技術を身につける。 パース作成・BIM-xデータによりモデル情報を視覚的に、インフォメーションする能力を身につけ、卒業設計に活かす。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要		後期
		① ・ガイダンス(BIMの概念、Archicadの概要) Archicadの基本操作1(起動～)
		② ・Archicadの基本操作1・基本演習 (～ 要素の入力・選択・移動・複写等)
		③ ・Archicadの基本操作2 ・演習課題1(1F:柱・梁・壁)モデリング
		④ ・演習課題1(1F:階段・スラブ・屋根・メッシュ・ドア・窓・オブジェクト・ゾーン)モデリング
		⑤ ・演習課題1(2F モデリング)
		⑥ ・演習課題1(2F モデリング)
		⑦ ・演習課題1(3F モデリング)
		⑧ 材質変更 図面レイアウト・印刷
		⑨ 演習課題1 Archicadによる立面図・断面図
		⑩ 卒業設計支援講義
		⑪ 卒業設計支援講義
		⑫ 卒業設計支援講義

評価方法	定期試験は行わず、中間は基本演習と演習課題1(2Fまでの出来高)と期末は演習課題1(完成版)により、進捗度、正確性、講義に取り組む姿勢も加味する。中間・期末それぞれ100点満点の平均点で後期の評価とする。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	無し	講師オリジナルプリント	

その他	ソフトは、コンピューター室のArchicad(windows版)を使用する。
-----	--

教科名 自主研修活動(1年次)

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 各担当教員

実務経験: 一般教員

目 的	さまざまな資格取得と履修科目以外での教科の勉強をすることにより、深い知識と就職他に役立つ資格を取得することを目的としている。
-----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学習 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。	後期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学習 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。
------	--	--

評価方法	出席を基本とし、受講する。
------	---------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	専門のプリントを配布する。		

その他	事前にどの講座を受けるのか、希望を取り、受講する。
-----	---------------------------

教科名 自主研修活動(2年次)

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 各担当教員

実務経験: 一般教員

目 的	さまざまな資格取得と履修科目以外での教科の勉強をすることにより、深い知識と就職他に役立つ資格を取得することを目的としている。
-----	--

実務経験 の生かし 方	
-------------------	--

授業概要	前期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学習 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。	後期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学習 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。
------	--	--

評価方法	出席を基本とし、受講する。
------	---------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	専門のプリントを配布する。		

その他	事前にどの講座を受けるのか、希望を取り、受講する。
-----	---------------------------